

経営比較分析表（令和4年度決算）

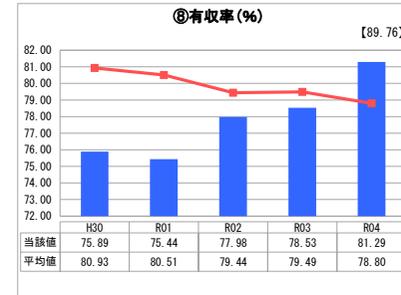
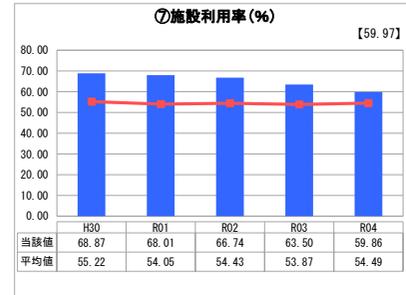
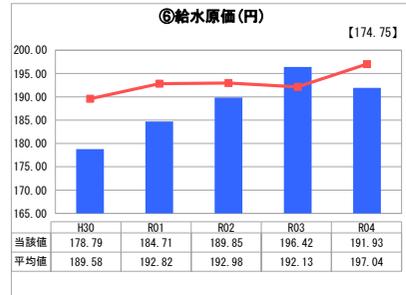
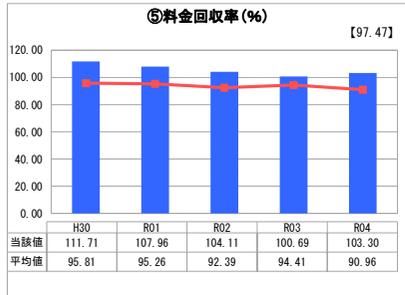
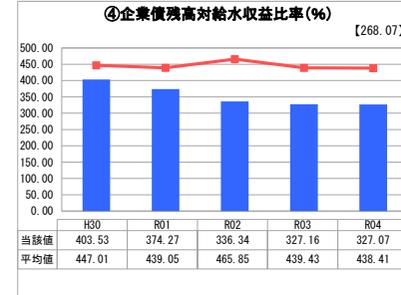
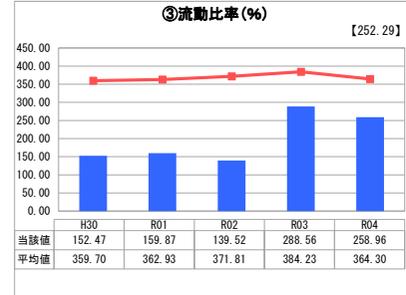
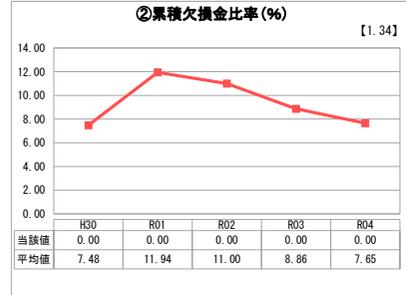
岩手県 山田町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	80.08	96.04	3,388	

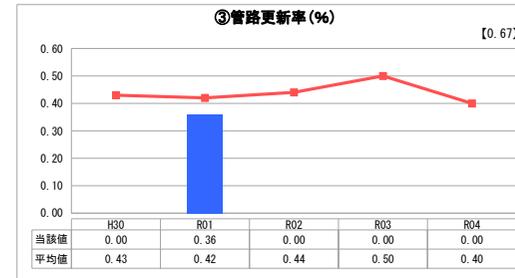
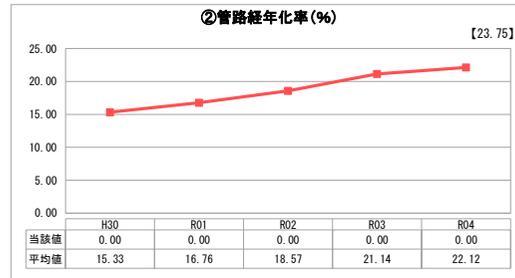
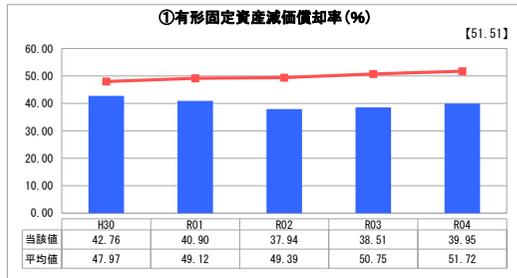
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
14,486	262.81	55.12
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
13,695	27.41	499.64

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率
100%以上で推移しており、水道料金を主とする収益で維持管理費等を賄っている。給水収益が減少していることから、更なる経営改善に取り組んでいく。
- ②累積欠損金比率
0%であり、累積欠損金は生じていない。
- ③流動比率
100%を超えているが、類似団体平均値より低率であることから、流動資産を増やす対策が必要である。
- ④企業債残高対給水収益比率
年々減少しており、企業債の償還が進んでいる。
- ⑤料金回収率
100%以上で推移しており適切な料金回収を確保しているが、給水収益が減少傾向であることから、適切な料金水準の検討が必要である。
- ⑥給水原価
全国平均値を上回っていることから、今後とも経費改善に努めてゆく。
- ⑦施設利用率
類似団体平均値を超えているが、給水人口の減少に伴う配水量の減少により、年々利用率が下がっている。
- ⑧有収率
漏水調査及び修理により年々有収率は向上し、類似団体平均値を上回った。今後とも漏水対策に努めていく。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率
類似団体平均値及び全国平均値より低率であり、耐用年数に近い資産が少ないことを示している。
- ②管路経年化率
類似団体平均値及び全国平均値より低率である。
- ③管路更新率
0%と低いが、管路経年化率が低いことから、適正である。

全体総括

全体的に経営の指標は、概ね健全な数値である。しかし、人口減に伴う給水収益の減少により経常収支比率の減率、給水原価の上昇などが生じている。人口減少は今後進んでいくことから、令和3年度に策定した水道ビジョン、水道経営戦略、アセットマネジメントなどに基づき、適切な料金収入の確保及び経営改善を図って行く必要がある。